

事例編

プログラム事例を読む前に

1 事例の収集・選択の観点

本プログラム事例集のモデルとなるプログラムの収集・編成に当たっては、充実した活動が行われ、かつ成果が上がっている取組であって、他の取組のモデルとなる学校について、先進事例の収集・選択を行った。

教職員や外部講師等による一方的な指導のみでなく、児童生徒が非行防止教室等に積極的に参画したり、非行防止教室等を通じて自ら問題を設定し、解決する等の工夫がなされているもの

学校・教育委員会・警察等関係機関・家庭・地域のそれぞれの役割分担が明確にされ、効果を上げているもの

教育課程への位置付けが適切になされるとともに、事前・事後における指導等と明確に関連付けられているもの

児童生徒とその保護者が共に参加する取組など、家庭の積極的な非行防止教室等への参画を促すもの

2 非行防止教室等の類型

本プログラム事例集においては、各学校等が推進する非行防止教育等の一環として、児童生徒又は保護者を対象として、学校内外において警察職員（少年補導職員、警察官等）や医師、薬剤師等の専門家や地域の人材等を招いて実施する活動及びその事前・事後における学習指導等の取組について、次のような活動の類型ごとに示している。

なお、これらの類型は、本書における事例の提供のため、外部講師や非行防止教室等を行う対象、活動の内容などに着目して仮に整理したものであり、固定的なものではない。学校での取組は、ねらいなどに応じて複合的な活動が行われることも多く、収集した事例についても、複数の性格を有するものがみられた。そのような事例について、ここでは整理の都合上、そのプログラム事例で取り上げられている活動の対象や内容などからみて最も近いと思われる類型の中で紹介している。

取組（例）

- ・喫煙、飲酒、薬物乱用等の防止に係る取組
- ・性の逸脱行動等の防止に係る取組
- ・窃盗、万引き、暴走行為等の防止に係る取組
- ・児童生徒の犯罪被害防止に係る取組
- ・児童生徒の保護者を対象とした上記に関する啓発に係る取組

なお、本プログラム事例集の編集に当たっては、これらの取組について、

非行防止を主眼とした取組

犯罪被害防止を主眼とした取組

非行防止・犯罪被害防止を含めた総合的な取組に区分・整理している。

3 事例に盛り込んだ事項

各事例には、取組のねらい、活動の流れの概要、教育課程への位置付け、実施までの経緯、事前の取組、非行防止教室等の開催、事後の取組などを内容として盛り込んでいる。

なお、各事例の末尾には、「本プログラムの活用により期待される成果と活用上の留意点」を付し、見どころや活用の際の留意点などを示した。

4 事例を活用する上での留意点

- ・本プログラム事例集に掲載されている活動における関係機関との連携の在り方や校内の役割分担の在り方等は例示であり、各学校や地域において非行防止教室等を実施する際には、それぞれの実情や学校のねらいによって適切な内容を検討する必要がある。

掲載プログラム

事例番号	プログラムの名称	学校種
1	地域団体等と連携して暴走族への加入阻止を図る取組	中学校
2	他人の物をとらないことや買い物のルールを体験的に学ぶ取組	小学校
3	地域の事業者等と連携して万引きの防止を図る取組	小学校
4	警察の委嘱による中学生ボランティアの取組成果を活用する取組	中学校
5	少年補導センターが生徒の協力を得て作成した教材を活用する取組	中学校
6	学校と保護司が非行防止教室をはじめ多様な形でかかわる取組	中学校
7	関係機関と連携し、交通違反や出会い系サイトでの被害の阻止等を行う取組	中学校
8	警察と連携し高校生ボランティアが中心となった規範意識啓発の取組	高等学校
9	生徒指導の体系化を図り、充実した非行防止教育を実践している取組	高等学校
10	生徒指導上の諸課題の現状を踏まえ、非行行為を断る勇気をはぐくむ取組	中学校
11	学校に派遣される元警察官と日頃から連携し、時宜に応じて非行防止教室を開催する取組	中学校
12	保護者を対象とした非行防止教室を開催し、学校の教育活動につなげる取組	小学校
13	生徒の落書き消しのボランティア活動を通じて、地域ぐるみの環境浄化につなげる取組	中学校
14	様々な活動を通じて性犯罪等にかかわる生徒の被害防止を図る取組	高等学校
15	外部講師を招き、生徒によるディスカッションを行う取組	高等学校
16	犯罪被害者遺族を外部講師に招き、講演会を行った取組	高等学校
17	学級活動と外部講師による全校指導を組み合わせる取組	小学校
18	地域の「こども110番の家」を活用し、家庭と連携して犯罪被害防止を図る取組	小学校